

令和7年度 学生チャレンジプロジェクト 成果報告書

事業区分 ①、④、⑥

プロジェクト名 すくすく相山食育サポート

代表者 (所属・学年・氏名) 生活科学部管理栄養学科・4年・石田桃音

責任教員名 (役職・氏名) 講師・山田紀子

予算総額 95 千円

1. プロジェクトメンバー (氏名・学部・学年・役割)

氏名	所属・学年	役割分担
遠藤瑞希	生活科学部管理栄養学科・4年	相山女学園大学附属小学校 (副代表)
河合彩花	生活科学部管理栄養学科・4年	相山女学園大学附属小学校 (代表)
石田桃音	生活科学部管理栄養学科・4年	相山女学園大学附属相山こども園
神谷莉子	生活科学部管理栄養学科・4年	相山女学園大学附属相山こども園 (代表)
久野菜々美	生活科学部管理栄養学科・4年	相山女学園大学附属相山こども園
福永彩加	生活科学部管理栄養学科・4年	相山女学園大学附属相山こども園
山岸日奈子	生活科学部管理栄養学科・4年	相山女学園大学附属相山こども園 (副代表)
山田梨世	生活科学部管理栄養学科・4年	相山女学園大学附属相山こども園
鈴木沙菜	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属小学校
鈴置結依菜	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属小学校
出羽七帆	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属小学校
服部佳保里	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属小学校
原田滯	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属小学校
水谷真碧	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属小学校
矢田早和佳	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属小学校
山田花菜	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属小学校
安藤瑞姫	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属相山こども園
伊藤千恵	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属相山こども園
伊藤優里	生活科学部管理栄養学科・3年	相山女学園大学附属相山こども園
内田美来	生活科学部管理栄養学科・2年	相山女学園大学附属小学校
大橋ハルナ	生活科学部管理栄養学科・2年	相山女学園大学附属小学校
尾関結音	生活科学部管理栄養学科・2年	相山女学園大学附属小学校
川村來夢	生活科学部管理栄養学科・2年	相山女学園大学附属小学校
五太子茉央	生活科学部管理栄養学科・2年	相山女学園大学附属小学校
大宮夢佳	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
近藤星空	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
杉谷妃日里	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
関千聡	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
堤芹菜	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
中根成菜	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
服部未歩	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
広瀬華音	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校

藤井瞳里	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
吉城蒼彩	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
渡邊咲文	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属小学校
武井綾菜	生活科学部管理栄養学科・2年	相山女学園大学附属相山こども園
塚田佳世	生活科学部管理栄養学科・2年	相山女学園大学附属相山こども園
太田華怜	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
近藤星空	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
柴垣美空	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
柴垣りえ	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
樋口満友	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
藤井瞳里	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
牧野夢乃	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
松浦初音	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
水野そよ	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
水元茜里	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
本橋香織	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
保田真由	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
山田由奈	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園
山田和奏	生活科学部管理栄養学科・1年	相山女学園大学附属相山こども園

2. プロジェクト開始の背景・経緯や目的等

この活動は、こども園、小学校ともに2021年度から活動しており子ども達が食に関する知識や行動を楽しみながら学ぶことで、食に興味や関心を持ち、食べる意欲を育むことを目的としています。今年度は昨年度と同様に食育媒体の作成、掲示、食育イベントの開催、配膳の補助を行い、食知識を身につけるだけでなく、実際に食に触れてもらう機会をさらに増やしました。この活動を通して成長や発達が著しい子どもたちが食に興味や関心を持ち、食の体験を広げることで食べる意欲を育むことを目的としました。

3. プロジェクトの成果及び達成状況

活動は管理栄養学科1～4年生の有志が参加しており、年間通してこども園、小学校での食育を実施しました。計画の一つとして、こども園は3ヶ月に1回食育媒体の掲示物を企画、作成しました。掲示物は「とまとについてしろろ」「たべもののちからについてしろろ」「すがたをかえるだいで」を作成しました。掲示物は写真を活用し、めくったりすることで子どもたちが興味を持ち、楽しめるような仕掛けにしました。また、直接子ども達と食がふれあえる場を提供するために、園児参加型のイベントを行いました。イベントは、8月にピザクッキング、2月にいちご大福クッキングを行いました。実際に子どもたち自身が生地をのぼしたり、食材を盛り付けたりといった工程を完成まで行うことで、楽しみながら食への関心を高めることができました。さらに夏休みの間、こども園にて昼食の配膳補助を行い、活動を通じて園児とコミュニケーションを図る機会となりました。

加えて、附属小学校においても食育活動の一環として食に関する媒体の作成および夏休みイベントを実施しました。媒体は、6月に「野菜をたくさん食べよう」を作成し、児童が興味を持ちやすいようイラストやクイズ形式を取り入れ、視覚的に分かりやすい内容を工夫しました。夏休みイベントは8月に「夏野菜ピザ、豆サラダ、フルーツラッシー」を作成する料理教室を開催しました。5組11名の親子が参加し、楽しみながら食について学べる機会を提供することができました。

4. 大学や地域・社会へ与えた影響

この活動を通じて、私たち学生側は幼少期から学童期への食育に関する栄養教育の方法を実体験として学ぶことができ、机上の学びにとどまらない貴重な経験となりました。これまでの活動の中で、園児や児童がどの程度の知識を持っているのか、また、どのような媒体であれば興味を持ち学びにつ

ながるのかについて、先生方からのご指摘も踏まえながら観察を重ね、新たな発見を得てきました。その中で、園児の興味を引く工夫、知識として定着する内容、そして繰り返し遊ぶことができる頑丈さを備えた教材の重要性を学びました。

こども園では園児と直接関わるイベントを通して、より身近に子どもたちの反応を感じる事ができました。短時間の関わりだけでは分からない園児一人ひとりの特徴や、食に対する関心の高さを実感する機会にもなりました。また、小学校においても、児童の反応を見ながら媒体の活用や食育イベントを実施することで、児童にとって理解しやすい内容や言葉遣いについて学ぶことができ、子どもたちの食に対する関心の強さを改めて感じました。これらの経験は、学生にとって将来管理栄養士として食と健康に関わる専門家となるための意識を高めるキャリア形成の機会となりました。同時に、園児や児童の食への興味や関心を高め、健康な成長を支えることへの期待も高まっています。

管理栄養学科では、3年次に学外で実施する臨地実習がありますが、本活動は1・2年生にとってはプレ実習としての役割も果たしています。また、3・4年生にとっては将来を具体的に考える一助となり、対象者により寄り添った視点で考える機会となりました。さらに、スライドを活用した食育クイズや、読み聞かせといった学内の講義を応用した教育方法に挑戦しました。1年生にとっては初めて行う栄養教育となり、子供たちの反応や興味の持ち方などを実際に観察できる機会となりました。2・3年生には今までの経験から多様な教育手法を取捨選択する力を養うことができました。

このように、栄養学を学びながら子どもたちと積極的かつ継続的に関わる本活動は、総合学園である本学だからこそ実現できる取り組みであり、学生と子どもたちが相互に食と健康について学び合う貴重な機会となっています。

5. 今後の課題

本活動は子どもたちが食への興味や関心を持ち、食に関する体験を行うことで食べる意欲を持つことを目的としていました。また、学生側は講義で学んだ知識を実践の場で活用し、将来、食に関わる専門職を目指すうえでのキャリア形成につなげる機会とすることを目指していました。今後は園児、児童と関わる機会を増やし、よりこども達に寄り添った食育活動を行う機会を増やしていきたいと考えています。具体的に、こども園は掲示物の作成を毎月2回実施すること、また配膳補助や読み聞かせを夏休み期間だけでなく毎月継続的に行うことを計画しています。これらの活動を通じて、園児と学生が相互に学びを得られる活動を推進していきます。

また、今年度は学生同士の協力がうまくできていませんでした。活動の質をさらに向上するために、ミーティングを定期的実施し、メンバーが集まる機会を増やすことが課題です。事前準備や役割分担をより明確にすることで内容の充実や活動の継続性向上へとつなげていきたいと考えています。さらに本学が総合学園であるという特色を生かし、こども園と小学校の連携強化も考えています。今後は両グループによる合同ミーティングを開催し、互いの活動状況の報告や課題への対策を検討します。また、クッキング教室や食育イベントと一緒に開催するなど、連携を深める取り組みを進めていきたいと考えています。